

審査の結果の要旨

氏 名 安 国 鎮

提出された学位請求論文「住宅向けツーバイフォー構法の地域性に関する研究」は、日本を含む東アジア、北米、オセアニアにおけるツーバイフォー構法に関して、それぞれの地域による構法の差異とその要因、東アジアにおける同構法定着の経緯を明らかにした論文であり、全5章からなっている。

第1章では、研究の背景、目的、既往の関連研究の成果等を明らかにしている。具体的には、ツーバイフォー住宅は、画一的な技術であるため、気候等の変化への適用が難しいと一般的に言われているのに対して、ツーバイフォー構法が世界各国に普及し、普及している地域の気候条件が多様であるという現状を考えると、ツーバイフォー構法の環境変化に対する適応性が低いとは考えられないとした上で、北米、東アジア、オセアニア各地域の要求条件に対応したツーバイフォー構法のあり様の相違点とその要因を明らかにすると共に、北米からアジアへのツーバイフォー住宅の導入・定着過程を社会システムとの関連から明らかにすることを研究の目的としている。

第2章「ツーバイフォー住宅の地域化へ」では、北米におけるツーバイフォー構法の成立過程と各国への普及状況を整理した上で、各地域での構法の決定要因として、気候・気象、シロアリ等の虫菌害の有無から成る要求条件と、行政指導、資材流通体制、技術教育体制から成る社会システムとがあることを指摘し、次章以降の分析の枠組みとしてこれらを用いることとその理由を明確にしている。

第3章「要求条件の差異による地域性(環太平洋地帯を中心に)」では、環太平洋地帯の6ヶ国9都市(モントリオール、オランダ、東京、札幌、那覇、ソウル、パース、メルボルン、オークランド)に建てられたツーバイフォー住宅を対象として、現地調査及び文献調査を行い、各都市の要求条件によって技術要素別に各地域でのツーバイフォー住宅の構法を比較して相違点を明らかにしている。具体的には、安全性に関連して、基礎構法、各部緊結方法等の違いが、耐久性に関連して、基礎立ち上がり、防湿層の設置、防蟻手法、防腐処理等の違いが、居住性に関連して、外壁の層構成、遮音構法の違いが、それぞれ顕著であることを、詳細に明らかにしている。

第4章「要求条件の差異による地域性（アジアを中心に）」では、東京、大阪、北海道、沖縄、ソウル地域へのツーバイフォー住宅の定着過程を、行政、流通、技術教育という3つの社会システムとの関連で明らかにしている。まず、行政規制による地域差として、日本が同構法を公式に受容したが、独自の法規改定を行ってないのに対して、韓国は同構法を公式に認定する法規が制定されておらず公式に受容したと言えない段階にあるが、耐火規定緩和などの改定により実質的にツーバイフォー住宅が5階まで建築可能になっていることを明らかにしている。また、資材流通による地域差として、日本は構造材である製材以外に、全ての製品に対して国産材を使っているが、韓国は石膏ボードと設備製品を除き、ほとんど輸入材を用いていることを明らかにしている。更に、フレーマー育成教育による地域性として、日本はフレーマー数が充足し、新たな育成教育が必要のない段階に入っているのに対し、韓国では国内の学校や企業による教育が行われ始めている段階にあることを明らかにしている。

第5章「結論」では、前4章で新たに得られた知見に基づき、明らかになったツーバイフォー住宅構法の地域による変容と定着の過程の違いを整理し、本論文の結論としている。

以上、本論文は、豊富な文献調査及び現地調査、関係者への詳細な聞き取り調査等を通じて、東アジア、北米、オセアニアのツーバイフォー住宅構法の地域性とその成立要因、そして同構法の定着過程の地域による違いを具体的かつ詳細に明らかにした論文であり、建築学の発展に寄与するところが大きい。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。

「審査の結果の要旨」の概要

1. 課程・論文博士の別	課程博士
2. 申請者氏名（ふりがな）	安 国鎮（あん くじん）
3. 学位の種類	博士（工学）
4. 学位記番号	博工第 号
5. 学位授与年月日	平成 年 月 日
6. 論文題目	住宅向けツーバーフォー構法の地域性に関する研究
7. 審査委員会委員	(主査) 東京大学 教授 松村秀一 教授 野城智也 准教授 西出和彦 准教授 腰原幹雄 准教授 藤田香織 名誉教授 坂本功
8. 提出ファイルの仕様等	提出ファイル名 使用アプリケーション OS
使用文書ファイル	陳学位論文.doc word2000 win98

最終試験の結果の要旨

論文提出者氏名 安 国鎮

審査委員会は、平成 19 年 7 月 6 日に論文提出者に対し、学位請求論文の内容及び専攻分野に関する学術について口頭による試験を行った結果、本人は博士（工学）の学位を受けるに十分な学識と研究を指導する能力を有するものと認め、合格と判定した。

審 査 委 員 会 報 告 書 [課程博士用]

※報告番号	甲 第 号	※授与年月日	平成 年 月 日
※学位記番号	博 工 第 号	研究科名	工 学 系 研 究 科
学位の種類	博 士 (工 学)	専 攻 名	建 築 学 専 攻
ふりがな	あんくじん	生年月日	年 月 日生
氏 名	安 国 鎮	国 籍	韓 国
論文題目	住宅向けツーパーフォー構法の地域性に関する研究		
主論文の冊数	1 冊		
審 査 委 員 会 委 員	(職 名)	(氏 名)	(印)
	主査 東京大学 教授	松村秀一	
	教授	野城智也	
	准教授	西出和彦	
	准教授	腰原幹雄	
	准教授	藤田香織	
	名誉教授	坂本功	
論文の内容の要旨	別紙 1		
審査の結果の要旨	別紙 2		
最終試験の結果の要旨	別紙 3		
審 査 委 員 会 の 意 見	審査の結果、博士（工学）の学位を授与できると認める。		

※報告番号は、事務局（学務課）において記入する。

※学位記番号、授与年月日は、研究科委員会の審議後研究科において記入する。